

この冬の寒波で街中の人工湖も完全氷結。付近の大人たちが氷をならして作ったスケートリンクで、大人も子どもも楽しそうでした。

アートか本気か、街中に突如出現した「hug zone (抱擁エリア)」の看板。

デンマーク王国 DATA

人口551万人(≒北海道)、面積4.3万平方キロ(≒九州)、欧州最古の王室を有する立憲君主国。「世界一幸福度の高い国」「環境・デザイン・福祉先進国」として知られ、アンデルセン童話、食器・家具・知育玩具などのブランドは日本でも有名。

在デンマーク日本大使館に出向中の事務局職員がお届けする本コーナーでは、国際競争力や幸福度で高い評価を受けるデンマークの現地報告を紹介しています。樋口によるレポート(Part II)は今号で最終回となります。ご愛読ありがとうございました。Part IIIもお楽しみに。

変わりゆくデンマーク 残ってほしい風景

デンマークの年末恒例行事は、大晦日の女王陛下のスピーチです。パーティーや花火の準備に忙しい人たちも、夕方6時にはTVの前に座り、中継に耳を傾けます。今回のスピーチは、デンマークの「変化」に関するものでした。金融危機以来、人々の利己心が増しつつある状況を懸念され、経済危機がモラルの危機につながらないよう、デンマークの価値観を維持していこうという呼びかけで始められました。折しも今年は総選挙の年。金融危機の影響、財政問題、少子高齢化等の課題に直面する福祉国家・デンマークの将来を巡る選択が行われます。その結果生じる変化が前向きなものであってほしいと期待しますが、その一方、そうした変化にかかわらず、個人的にはいつまでも変わらずにあってほしいと願うデンマークの風景があります。

【見知らぬ同士のコミュニケーション】

街中で、他人同士の間で自然に会話が生まれる様子をよく目にしました。往々にして、渋滞のバスの中、来ない電車を待っているときなど、トラブル時が多いのですが、誰かが「やってられないね」と口を開くと、「今日は何かあったかな」と他の人が受け、「(遊びに行く途中ではなく)仕事に行く途中でよかったね(笑)」と次の人が返すなど、いらいらする状況をみんなで笑い飛ばすような場面がありました。

また、公共交通機関には、ベビーカー(大型・骨太)専用スペースが設置されていますが、乗り降りの際に近くの乗客が手を貸すのは当然、スペースが足りなくなれば、座っていた人もごく自然に席を譲ります。駅の階段でも、お神輿のように男性数名に担がれていくベビーカーをよく目にしました。

【誕生日は盛大に】

デンマークでは、誕生日を迎えた本人が周りにお菓子を配って回る習慣があります。逆じゃないの?と戸惑ったものですが、「たくさんの人に祝ってもらえる良い仕組みじゃない」



樋口 麻紀子

在デンマーク日本大使館一等書記官(経済同友会事務局より、2009年1月～2011年1月末まで出向)

とのこと。家族や友人によるお祝いも盛大かつ気合いの入ったもので、中には家族の誕生日のために前日から休暇を取る人もいるほどです。周りの人のために知恵を出し、手間をかけ、時間を割く心の余裕をうらやましく思ったものです。

【季節を待つ心】

デンマーク料理について、特に日本人の間で高評価を聞くことはあまりなかったのですが、珍しい食材に出会えるのは楽しみの一つでした。中でもデンマーク人は、季節の地の食材を殊のほか誇りにしており、春の苺、初夏の小海老と白アスパラガス、秋の茸については「もう食べた?」と地元の人からご推薦をいただくほどでした。日本のようにいつでも何でも手に入る環境ではありませんが、その分季節の恵みを待つ楽しみは大きかったようです。

こうして挙げると、一国の首都とは思えないのんびりした雰囲気を想像されることと思いますが、最大の例外は運転。自転車・自動車ともバイキングの血が蘇ったかのごとく運転が荒く、スピードも並みではありません。この点はどう少々、変わってもいいように思うのですが…。

最後になりましたが、2年間貴重な機会を頂きまして、どうもありがとうございました。Mange tak!(多謝)

▼アパートにて、留守宅のドアを飾りつける人々に遭遇。新婚旅行に出かけた住人へのサプライズでした。



▲試食だけでもおなかいっぱいになるマーケット。クリスマス前で食材からツリー飾り、キャンドルなどいろいろなもの売られています。